

自然と生き物の色々な話

～どんぐりの背比べ～

秋が深まってきました。

この時期に雑木林を歩くと足下に沢山の木の实が落ちています。

今回はそんな秋の木の实について勉強してみましょう。

どんぐりと人の関係



木の实をつける木は沢山ありますが、今回は【どんぐり】の木に注目して見ましょう。

のっぽだったり、ずんぐりむっくりしていたりといろいろな形の木の实がありますが、これらは全てどんぐりです。みんなが食べているクリも実はどんぐりの仲間です。

クリは甘く、渋みがなく美味しいですが、クリ以外のどんぐりのほとんどは甘くなく、渋い味をしています。ただ、渋いけれど栄養はたっぷり詰まっているため、昔の人は煮たり、水につけたりして渋みを抜いて食べていました。

縄文時代から、お米を育てにくい山あいの村ではつい100年くらい前までごく普通に食べられていたようです。



ドングリと虫の関係

ドングリをつける木はクヌギやナラ、カシなど、いわゆるカブトムシやクワガタが好きな木であることが多いです。

特にクヌギやコナラなどにはよくそういった虫がいます。

森の中で足下に下の写真のようなドングリが転がっていたら近くにカブトムシやクワガタが集まる木があるかもしれません。



ドングリと動物の関係



ドングリは、多くの生き物が食べ物としています。

ドングリ 50個ぐらいでご飯茶碗一杯分の栄養があるので、食べ物のない長い冬を越すため、動物たちはドングリを食べて太ります。クマやイノシシはその良い例で、脂肪を体にため込むために秋に大量のドングリを食べます。



リスやネズミはドングリを集めて土に埋め、保存食にする習性があります。

いろいろな場所にドングリを埋めますが、リスやネズミはドングリを埋めた場所をよく忘れるようです。

そうやって忘れられたドングリから芽がでて、新しいドングリの木が生えてきます。

